



特 255



922

一六年九月

福島縣における文化活動報告書

福島縣翼賛文化協會

始



特255  
922

# はしがき

いま茲に出す「活動報告書」は今年の五月二日福島縣翼賛文化協會が生れてから五ヶ月の間に行つて來た仕事の主題を列記したものであり、縣翼賛文化協會の設立に呼應して各地に結成された十餘文化團體の事業をメモしたものである。こんにち我々の仕事は單に文化協會を作るだけの事なら非常に容易な時代である。併し作つた文化團體に魂を入れ、効果をあげやうとするには洵に困難な時代であるといはなければならぬ。國民全体が過去のいはゆる舊体制を脱却して、新しい國民としての生き方を求めんとするとき新文化体制運動への旗揚げに参加させることは決して困難な事ではない。だが旗揚げに参加した義士達を目的のために動員するといふことは目的が大きければ大きいほど困難な事である。もう一度言ひかへれば「翼賛運動」の旗印をかゝけて新國民文化建設への人を求めることは雑作もな

いことである。しかし求め得た人々に文化建設への任務を與へることは非常に六ツケしいといふことだ。然もこの六ツケしい仕事はあらゆる困難を排して我々が常に行はなければならぬ事である。



本縣における今までの新文化建設運動はかゝる事情から見て全く玉石混淆だ。或は石だけであるのかも知れない。玉をつかまふとして石を逐つて來たのかも知れない。だがこれも一つの仕事ではなかつたか。經驗は批判を通して石も玉に代へることが出来るから。我々は假令いままでの仕事に石にしか價しない仕事であつたにせよ悔んでばかりはぬまい。「國民が文化を新しき時代に即應して再認識すること」「從來の誤れる文化觀—消費的、享樂的、個人的、非公共的文化觀を批判して全國民的な基礎の上に立つ生産面にふれた新文化を創造すること」——と新しい文化運動のテーゼは既に示されてゐる。我々はこのテーゼを念頭に「それには？」といふ仕事を常に忘れてはゐないのである。

どんな野球の名投手でも次々の打者を三振でばかりうちとすることは出来ないだらう。やはり四球で送ることも免れ得ないのではなからうか。同じやうにどんな立派な指導者にもその指導した仕事の全部がヒットであることは望まれない。新文化建設運動の同志諸君仕事の効果の弱いことに氣をいらだたせてはならない。たゞ全力をあげて與へられた任務をたゆみなくやりつゞけやう。

新文化運動における第一の任務は舊來の文化觀との闘争である。文化とは消費的なもの、享樂的なもの飾装的なもの、もつと具体的には文化とは文學であり、美術であり、映畫であり、音楽であり、演劇であり、ハイカラな生活様式である—といふ考へ方、これが文化の精髓だといふ考へ方との闘争である。この闘争において我々は（福島縣の文化運動）は少し意地地な位までさういふ「文化」を斥ける方法をとつて來た。新文化運動のテーゼとして消費的なものゝ代りに生産的な、裝飾的なものゝ代りに實生活的なもの

所の移動演劇と産組と共同の移動映畫四十餘ヶ所はかうした用意と意圖のもとに行つた。

本文のはじめに文化運動がそのネラひが高ければ高いほど困難だと述べておいたが、これは僅か五ヶ月間ではあるが我々が生活文化の問題をとりあげて痛感した事である。具体的に言ふと、我々がやつてゐる農山村の保健衛生運動では、文化協會員である醫師衛生技師が醫者のゐない農山村に出て行つて患者を見舞つてやることはさう六ヶしい仕事ではない。だが文化運動における醫學者の報國活動は單なる慈善事業に止つてはならないのである。刻下の急務として無醫村の悩みを解消しやうとすることも確に一つの仕事だが、これがそれだけに止つたのでは文化運動とは言はれない。文化運動における醫療報國活動の意義は當面の患者を救助すると同時に保健衛生の知識の洵に低い我が農山村を醫學的に高めて行くことにある。言葉をかへて言へば低い農山村の醫學文化を引上げることである。これと同じ

を發表し、公約してゐる我々は現實の仕事の上にそれを示さなければならなかつたから、映畫や、演劇や、文藝講演會の要求には意識的に應へないやうにして、厚生運動や生活改善運動に主力を向けて來た。會津、磐城を中心とする保健衛生運動、郡山、石川を中心とする生活改善運動がその現はれである。しかし一口に藝能運動と呼ばれる從來の文化事業も没却することの出来ないのはもとよりいふまでもなく、これも全体の數としては可なりなものをやつてゐる。

新國民文化建設における藝能運動の役割を否定するといふことは「實生活派」とも稱すべき人々の一種の反動的な意見で、それはまた決して妥當ではないだらう。問題はその取上げ方と、取上げる時機によつて是非が問はるべきである。我々は戦時生活の糧として、生活文化向上への補助運動としてこれをやつて來た。技術的には新しい文化運動も從來の文化運動に變りがないなどといふ印象を與へないやうにして、藝能の持つ役割が新文化運動の武器として有力であることを印象づけるやうにして。會津六ヶ所縣北三ヶ

ことは他の部面にも非常に多いのである。現在不足してゐるものの急場を満してやるだけならさう六ヶしいことではない。がその不足してゐるものをやがて自主的に解決させやうとする仕事は實に容易なことではないのである。單に無いところに持つて行つてやるだけのことなら地方文化の振興は期されなくともよいだらう。事實それだけのことから今までの文化運動でもやつて來た。我々は時局の必要で増員された中央文化の出張員となつて、與へて歩くだけの文化運動ではなく、自ら持ち、持たせる文化運動をしなければならぬのである。新國民文化建設における地方文化運動の意義はこゝにあるのではあるまいか。文化運動の文化運動たるゆえんがこゝにあるのではあるまいか。

我々の今までやつて來た仕事の大部分は極めて莫然たる考へのものである。新文化運動の舊文化觀に對する闘ひにしてもまことに觀念的なものだつた。しかしいま僅かながら實踐を通じてこれだけのことを明かすことが出來た

また數ヶ月過つてこの考へを省みるときこれもまた或は誤つてゐるのを知るのかも知れない。だが、よしさうであつても、我々はかうして仕事をやつて行かなければならぬのだ。實踐を通じての經驗と批判なしに運動の前進はあり得ないから多忙な身のお醫者さんが歩きなれない山道を五里も六里ものぼつて無醫村に病人を見舞ひ、その病因を突止めて山村の將來に明るい希望を持たせやうとする努力と情熱。この努力の酬えられない筈はあるまい。いやいなやうに努力するのがこれからの我々の仕事でなければなるまい。

仙臺で開かれる東北地方文化協議會に臨んで今までの活動報告を提出せよ、といふ文化部の下命である。恰度本縣の文化運動を指導してくれた中島健藏氏や酒井三郎氏にも言はれて報告書を作つてゐたときだつた。各種の事業についてではもう少し内容に亘つて参考になるやうにと思つたが時間と費用の都合でやむを得ない。なほ本書に纏めた地區文協報告記は九月十五日現在のものである。

## 縣内文化協會

本縣の文化運動として今まで最も精力を吸及して來たのは運動態勢の整備である。即ち文化協會を結成することが數ヶ月の間では重要な仕事であつた。同志相集つて相談しやがて準備會となり、創立大會となるまでは少くとも一ヶ月多ければ三ヶ月位も要するものである。我々がもつ新文化運動の歴史數ヶ月でこの組織に要した努力は可なりなものであり、精力も少いものではない。しかし縣文化協が生れて僅かに五ヶ月足らずだが、組織の擴大は洵に目ざましいものがある。會津、郡山、磐城、白河、須賀川、三春、石川、二本松、川俣、富岡、安積、藤田、小高、梁川、福島―準備中の二つを加へれば實に十六にのぼり、會津文化協の郡市支部を加へれば二十三になつてゐる。斯くて今や福島縣四市十七郡中文化協會の設立を見ない郡は僅かに一郡

のみである。縣文協は翼賛會と共に各地郡單位文化協會の結成を慫慂してゐるので遅くとも今年いつばいには全縣下各郡に郡單位文協の設立が見られるだらう。また各郡下には都市を中心とする文化協會結成の機運があるので町村文化團體の設立も見られることだらう。以下現在における縣下文化協會の概略。

### ▽福島縣翼賛文化協會

福島市福島縣廳  
大政翼賛會支部

會長 大原 八郎(醫博) 會員 七十名

本文化協會は大政翼賛會福島縣支部の文化部を代行するもので縣下一圓を活動範圍とし會員は少數のブレーション組織なり。

### ▽會津文化協會

若松市大町堅町三五

會長 新城猪之吉(酒造業) 會員 三千名

本協會は會津一市五郡を活動範圍とし、南、北會津、耶麻、河沼、大沼の五郡並に若松市に支部を置く。

### ▽郡山翼賛文化協會

郡山市燈田湯淺方

會長 湯淺大太郎(醫博) 會員 六百名

本協會は主として郡山市とその近在に活動す。

### △磐城文化協會

平市福島民報平支社内

常任委員 高木 稻水(新聞記者) 會員二百名

本協會は平市を中心して近在各村を活動範圍とす。

### ▽白河翼賛文化協會

西白河郡白河町中町熊田方

會長 熊田 猛夫(商) 會員 一五〇名

本協會は白河町を中心して附近各村に活動す。

### ▽須賀川翼賛文化協會

岩瀬郡須賀川町役場内

會長 佐藤市太郎(町長) 會員 二百名

本協會は須賀川町を中心して活動す。

### ▽三春文化協會

田村郡三春町實女内

會長 鎌田悌次郎(町長) 會員 三百名

本協會は三春町を中心して活動す。

### ▽石川翼賛文化協會

石川町石川中學校内

會長 森 深造(中學校長) 會員 三百名

本協會は石川町及び附近各村を活動範圍とす。

▽二本松翼賛文化協會 安達郡二本松町安藤方

會長 安藤 信(神官) 會員 百名

本協會は二本松町を中心に活動す。

▽川俣翼賛文化協會 伊達郡川俣町三浦方

會長 三浦宇之助(機業) 會員 百五十名

本協會は川俣町を中心に活動す。

▽富岡文化協會 双葉郡富岡町猪狩方

會長 猪狩喜久次(新聞記者) 會員 三百名

本協會は富岡町を中心に活動す。

▽小高文化協會 相馬郡小高町半谷方

代表 半谷 清造(機業) 會員 百名

本協會は小高町を中心に相馬郡南を活動範圍とす。

▽安積農村文化協會 安積郡豊田村岡部方

代表 岡部 源次(農) 會員 五十名

本協會は豊田村を中心として近村に活動す。

▽藤田青壯年隊文化部 伊達郡藤田町

東海林一郎(商)佐久間利秋(教員)等を中心として同町青壯年隊内に自主的活動をなす。會員五十名、同町中心に活動

▽梁川文化協會 伊達郡梁川町

國民學校教員大友文樹を中心に準備會を結成目下組織中なり同町中心に活動。

▽福島文化協會 福島市

福島高商教授本多長兵衛氏等を中心に目下準備中なり。

活動範圍は福島市と其の近村。

尙縣文協と地域文協の關係は本部と支部の關係にあり、地域文協は獨立団体としての機能を充分に發揮して實情に即した活動を行ふ一方、全縣的全国的な、意義において活動するため縣文協との連絡をとつてゐる。

## 各文協活動報告

### 縣文協

#### ◇文化講演會

五月二日夜七時から福島市公會堂に開催、聴衆一千二百名、大原會長の開會の辭に次いで上泉秀信、中島健藏、岸田國士の三氏起ちそれ／＼の角度より新文化運動の理念と目標を明かにす、同じ夜大原會長は福島放送局より文化協會の使命についてラジオ演説を放送。

#### ◇大政翼賛の歌發表音樂會

縣文化協會學藝部を中心に福島音樂聯盟生れ、その成員をもつて大政翼賛の歌發表音樂會を六月二日福島市公會堂に開く、聴衆二千余名非常な盛況であつた。

#### ◇第一回文化振興協議會

七月十七日縣廳第二會議室に第一回福島縣文化振興協議會を開く。出席者は縣文協諸役員に關係部課長(縣廳)及び地域文協代表として郡山、會津、磐城、白河、須賀川、石川、三春、富岡より二十余名、合計四十余名の會議で別項諸議案を附議、翼賛會、縣廳、醫師會その他各方面と連絡をとり又は單獨で決定事項を實踐に移すこととなる。

#### ◇指導者講習會

八月十六日から三日間福島市信夫山乃木庵道場に文化運動指導者講習會を開く。要項別項の通りで縣下各文化団体中堅四十余名出席、松田甚次郎、中島健藏、嵯峨義等、池田龍一、上泉秀信、大原八郎の諸氏を講師に合宿講習を行ふ

#### ◇文協厚生運動

若松市を中心に會津文協がはじめた厚生運動を全縣的に展開する目的で、八月十四日縣會議事堂に科學部委員會を

開き縣醫師會代表の出席を求めて運動の具体案を協議す。さし當り人的資源の倍養素たる妊産婦保護運動を起すことになり、縣醫師會の協力を得て妊産婦無料診療を行ひ、有疾病者に對しては事情により無料治療を施すこととなる。この會議に列席した縣社會、衛生兩課長はそれ／＼の立場より該事業を積極的に助成、文協、醫師會、縣廳の一体運動を起す。會議後間もなく醫師會は各支部に指令して實踐にとりかゝり、縣文協は大原會長、矢部理事で關係各方面に連絡、この保健挺身運動の全縣的滲透に當る。

#### ◇翼賛 武道大會

十一月の体育週間を選んで縣下武道大會を開催する計畫を樹て九月十日大原會長宅に体育部委員會を開く。年齢の別なく誰でも参加し得る武道大會を十一月九日開催に決定各郡において地方大會を開き、その優勝者を縣大會に送る種目は剣道、柔道、銃劍術、相撲の四種。

#### ◇移動演劇運動

七月下旬から八月月上旬にかけて縣内に移動演劇運動を起す。若松市外會津の六ヶ所は會津文協で、二本松は二本松文協で、福島は福島縣文協で、藤田は藤田青壯年隊文化部でそれ／＼主催。通じて一万余人の觀客を動員す。なほ移動演劇に前後して移動映畫會を産組と共同で縣内四十余ヶ所に開く。こゝでは磐城文協が積極的な活動を示す。

#### ◇綜合 美術展

縣文協學藝部主催で綜合美術展を開く計畫を樹て學藝部委員會を開く。期日は十一月下旬。洋畫、日本畫、寫眞に出來れば漆器、工藝も、具体案は委員をあげて考究中。

#### ◇生活改善運動

生活改善のうち取敢ず冠婚葬祭の改善を選んで七月四日大原會長宅に委員會を開く精勤時代縣社會課で示したものを土臺に具体案を決定。これを翼賛會縣支部案として發表郡市協力會議、隣組常會を通じて縣下に徹底す。

#### ◇第二回文化振興協議會

九月十八日縣廳第二會議室に開催、縣文協諸役員に會津白河、三春、川俣、郡山、石川、磐城、二本松、小高代表二十余名出席、東北地方文化協議會建議事項を中心に文化運動についての打合せを行ふ。大政翼賛會文化部から榎本久一、西牟田重雄の兩氏出席。

#### 會津文協

- ▽農村慰安映畫會 七月四日午後七時耶麻郡磐梯村大寺座に日本移動文化協會と共に開催、入場人員六百餘名無料
- ▽福島放送局長大羽傳氏を圍む座談會、五月二十九日午後七時公會堂日本間に於いて。
- ▽文化部酒井三郎氏中島健藏氏と座談會 六月九日午後一時當市榮町福島無盡樓上に於いて、地方文化運動の目的等に付き。
- ▽文藝銃後講演會 七月十五日午後七時、本協會後援、文

藝協會主催、聴衆約五百。

▽心構へ講演會 七月二十一日佛教護國團若松支部主催、本協會後援講師富神覺昇師。聴衆約八百。

▽發會式並に講演と演劇の夕 七月二十七日午後一時半先賢祭、會津文化に貢献せる文化的先人への慰靈祭、公會堂に於いて。午後七時柳澤健氏「日本文化の國際性」木村毅氏「舊會津藩の文化」日本移動演劇聯盟「バリカン」公演入場者約二千名無料。

▽移動演劇公演と文化運動講演 七月二十八日河沼郡野澤町野澤劇場、入場者約八百名、入場料二十錢。

▽移動演劇公演と文化運動講演 七月二十九日、耶麻猪苗代町劇場、入場者約八百名、入場料二十錢。

▽妊産婦、診察、ワ氏反應、無料檢診。若松市内九婦人科醫院に於いて實施豫想外の數患者を見る。檢診成績左の如し。

總計 一三八名 ワ氏反應採血者 四〇名

内 一名 強陽性

▽ドイツ映畫「勝利の歴史」試寫會 八月一日當市榮樂座に於いて、學校關係者を中心に、三百五十名招待。觀賞後感想回答をとる。文化映畫に對する希望大多數。將來文協主催の定期的文化映畫會の希望者も多數あり。

▽移動演劇公演と文化運動講演 八月二、三、四日、耶麻郡磐梯村大寺座入場者約六百名、廣田昭和電工工場。

田島町辨天座入場者七百名、入場料三十錢。

▽保科正之公事蹟講演會 八月十五日、猪苗代町國民學校郷土部五十嵐竹雄、古川直尉兩氏出席、聽衆二百名。

▽大江匡房著「闘戰經」第一回講義、八月二十三日市内福島無蓋樓上午後七時—九時、伊佐須美神社宮司、國防文化部長高松忠清氏講師。聽衆軍人、武道關係者三十名。

▽早朝歩かう會 八月二十四日午前五時—八時。約六キロ參加者四十名、此後毎月十五日コースを變へ續行。婦人の參加者三分の一。

▽北會津郡東山村川谷村へ診療班出張。第一回山間無醫村

訪問、厚生部委員、内科、産婦人科、小兒科、外科、耳鼻咽喉科、眼科、齒科、各壹名醫師出張す。

診療成績次の如し  
總計一〇七名。内譯、内科小兒科三六名、外科十名、耳鼻咽喉科十三名、産婦人科八名、眼科一五名、齒科二五名。

處置方法。簡單なる處置施行三五名、治療方針指示二八名、投藥一一名、注射七名、處方三名、以上總て無料となされた。

内科的には胃腸疾患並に過勞に依るロイマチス性の疾患が多い。結核性疾患は甚だ少く、三六名中一名の肋膜炎患者を見たのみ。

眼科、十五名中九名迄トラホームであつた、その他斜視眼瞼形態異常のものが多數見られたが、これは血族結婚より來る遺傳的のものである。

齒科、乳齒の處置の行はれて居ないものが多く、且つ齒髓の疾患が豫想以上に多かつた(廿五名中十六名)

一般に僻地には齒科疾患が少いものと考へられて居た

のに、今回檢診の結果反應の現象を見た事は甚だ興味あることで今後の研究調査を要す。因みに今夏學生無料診察班にも齒科は動員されなかつた。

▽妊婦無料檢診 耶麻郡喜多方町に於いても實施さる、九月一日若松第二回(結果未調)

▽音楽の夕 九月四日、新響團員加藤爲三郎氏ヴァイオリン、奥田智重子ソプラノ、中村ハマ子ピアノ、市公會堂白衣の勇士、遺家族招待、一般入場者の三分一、入場者約一千名、曲目は通俗名曲のみ。市内高女、實科高女へも出張演奏す。

▽「舊盆慰安の夕」 本年は舊盆行事の最大盆踊中止の爲。之に代るべき慰安の夕を舊七月十五、十六日(九月六、七日午後七時、市公會堂)に開催、絶讃をほくす。入場(無料)二日間約三千五百名。内容、A物まね、B輕音楽、歌謡舞、Cおはやし、D手品、E寸劇、以上全部市内外の素人のみ。

▽郡支部に於いても、それぞれ「舊盆慰安」を行ふ。大沼

郡高田町「演藝大會」二日、間野外公演。

耶麻郡猪苗代町「演藝大會」一日、喜多方町相撲大會。

▽團碁大會 九月七日、於若松市公會堂會議室、午後〇時—十時、此種催物としては近年になき盛會(七十名餘)普通の會に出ぬ人々も見えた。

▽その他、短歌會、俳句會、萬葉研究會、毎月一回開催中(第一日曜か第三日曜午後一時)

▽名曲鑑賞會毎月一回開催決定、於公會堂(夜間)無料。

▽渡部菊二氏作若松市よりムツリに贈りたる白虎隊白刃之圖(此種決定版)解説付原色版發賣豫定。

▽會津に於ける國寶、重要美術品、名勝等の寫真集編纂發賣豫定。

▽若松市物産陳列館に工藝品陳列棚設置、工藝品の紹介即賣、指導等、第一回委員會を九月十四日午後一時開催。

近く活動に入っている。

▽保科正之公二百七十年祭、來る九月二十七日は、保科正

之公二百七十年忌に相當するを機會として、公事蹟を顯揚引いて會津教學を天下に示し、國民精神作興に寄與せん爲め、九月十日若松市役所會議室に於いて、市町村長共同會議を開き、當日は一市五郡國民學校を中心として公の慰靈祭並に訓語を行ひ、若松市地元猪苗代町に於いては講演會開催の件を決定した。尙來年度よりは、是を「會津祭」として文化的行事を総合的に行ひ、年中行事の形式を以て行ふ豫定である。

## 郡山文協

▽記念講演會 (六月八日)郡山市公會堂  
講師 文化の理念

翼賛會文化部 酒井 三郎氏  
地文文化の意義 東大講師 中島 健藏氏

▽記念藝能大會 同日午後七時より公會堂洋間にて

▽記念放送 湯淺會長は「地方に於ける文化協會の使命」と題し六月九日午後五時より卅分間郡山放送局より記念放送をなせり。

▽經濟生活座談會 六月十一日午後三時より郡山無盡樓上に於て生活指導部主催の下に經濟生活座談會を開催。

▽ハイキングコース指定 六月十九日福島無盡樓上に体育部委員會を開き郡山市を中心とするハイキングコースを指定することに決定。渡邊、伊藤、吉田の三委員をあげてコース選定に着手せり。同日正しき歩き方指導の計畫も樹て渡邊委員が立案中なり。

▽科學模型展 六月廿八日福島無盡樓上に科學部委員會を開き夏季休暇中に於ける兒童の作品を蒐めて九月上旬模型展覽會を開催することに決定、その他會社工場の見學講演及科學文化映畫會の開催も計畫中なり。

▽瑞穂踊り發表大會 七月十日郡山市如寶寺馬頭觀世音祭禮に際し農林省選定瑞穂踊りの發表並に指導會を開催、雨中なれども大盛況を極めたり。

▽安積良齋百五十年祭 六月卅日郡山無盡樓上に教化部委員會を開き協議の結果今秋十月を期して郷土の生んだ大學者安積良齋先生の生誕百五十年祭を執行同時に記念講演會遺墨展も開催することに決定、また郡山地方に於ける偉人先覺者の遺徳を顯彰するため遺跡、墓所等に顯彰標本を建てることに決定せり。

▽出征勇士慰問繪畫展 七月二日郡山無盡樓上に學藝部委員會を開き國民學校兒童の夏季休暇中に於ける作品をもつて九月上旬圖畫展を開催し出品物をまとめて出征勇士慰問品として現地に送ることを決定せり。

▽役員會(部長會)開催 七月十二日湯淺會長宅に部長會を開き左の通り協議決定。

- 一、東洋大學々長大倉邦彦先生を招聘して七月例會を開催すること。
  - 二、縣下第一回文化協力會議に橋教化部長、橋本常任幹事を出席せしめること。
- 提案事項は文藝及文化協會機關紙發行の件。

▽時局協力懇談會 七月廿日午後一時より郡山市、郡山警察署と共同主催にて時局協力懇談會を開催せり、出席者は郡山市内の推進員青壯年部長八十餘名で湯淺會長、關市長、渡部署長から時局の緊迫性特に防諜の必要性を強調して時艱突破の決意を新たにし翼賛運動に協力されんことを要望せり。

▽第一回例會開催 本會創立後最初の例會を七月廿二日午後六時半より郡山金透國民學校に開催せり、折悪しく大暴風雨に遭遇したため出席者少なかりしも講師島洋大學々長大倉邦彦氏の有益なる講演を聽いて午後九時散會せり。

- 一、挨拶 湯淺會長
- 一、講師紹介 安中教諭齋藤嬌氏
- 一、講演 演 「轉換期に於ける國民の心構へに就て」 大倉邦彦先生

▽七月二十二日 郡山市公會堂に於て本會後援の下に郡山輕音樂團演奏會開催



▽七月二十七日 郡山幼稚園母ノ會に於て湯淺會長文化講演を爲す。

▽八月一日 郡山ラジオ体操の會二週年記念式に際し体育部に協力し湯淺會長祝辭を贈る。

▽八月一日より八月三日まで 大日本吹奏樂報國會福島縣支部主催吹奏樂夏期講習會開催に關し本會之を後援す。

▽八月十三日 大日本吹奏樂報國會主催「上海戰の夕」野外大演奏會あり本會之を後援す。

▽八月十三日 郡山市清水臺町内會青壯年部總會に於て會長「我民族文化の特性と日本精神」に就て講演。

▽八月十五日——十七日三日間 郡山如寶寺に於て本會教化部内郡山「參禪の會」開催す講師は臨濟宗建長寺派師家塚越裁松軒老師。

▽八月十九日 郡山市常會に於て冠婚葬祭新様式再設定に際し翼賛會市支部常務委員會は本會案を容れ市常會亦其案を採用に決定す。

▽八月二十七日 各部委員會開催、會長講演「我民族文化

の獨創性に就て」  
委員會決定事項

一、學 整 部

繪畫及寫眞展開催の件 決定

一、教 化 部

來る十月安積良齋先生生誕百九十年記念式典及遺墨展

を開催 決定

一、科 學 部

未決再開

一、体 育 部

九月二十一日日本會指定コースのハイキングを催し隣組

等のハイキング指導を行ふ 決定

一、娛 樂 部

農村慰安及〇〇慰問の爲めの移動演藝班を結成するこ

と 決定

一、生活指導部

縣衛生技手を講師として文民の爲め榮養食講習會を開

催すること 決定

十月中に廢品利用更生衣服展開催 決定

▽八月三十日 科學部委員會再開 左記決定

一、科學模型展開催の件

一、科學文化映畫會後援の件

一、防空研究座談會開催の件

▽八月二十三日午後七時 郡山市南通り町内會青壯年結成

式に於て會長講演す。「非常時に於ける青壯年の覺悟」

▽九月二日 本會會報第一號會員及各關係方面へ發送す。

▽九月十日 交通道徳心向上、道路愛護と衛生思想涵養の

爲め「左側を通りませう」「吐くな痰唾、愛せよ道路」の

二種標語を印刷し市内各戸に配布す(教化部)

△九月十二日 郡山修養園主催第二十七回乃木祭の後援を

爲し會長講演す「乃木大將と忍苦の精神」

▽傳統精神の究明 平地方は藩主のお國替が頻繁であつた

せいか明確な傳統精神といふものがない。これは青少年

の教育上、その指導精神がないわけであるので我々は先

づ第一にこの問題を取りあげた。

▽「磐城魂運動」 五月から六月にかけて「磐城魂」につい

て磐城毎日新聞紙上、諸家の意見を徴した。之に参加し

た各方面の人は九人であつて相當街の話題を賑はし、人

心を刺戟した。

(執筆者)諸橋敬一郎、柴田徳二、諸橋元三郎、高木稻水

高瀬勝夫、鶴沼孝昌、山崎忠兵衛、内木宗八、松村亨

▽郷土史講演會 六月四日福島無盡樓上にて磐城女教諭鈴木

光四郎氏の「我が郷土觀」と題する公開講演會を催した

聴衆百餘、平藩の歴史を説き磐城魂問題に及んだ。

▽軍歌運動 七月十五日軍歌を選定印刷に附し二千部を各

方面に配布した。

# 磐 城 文 協

▽「山村暮鳥の夕」 六月廿八日郷土に關係深い詩人山村暮鳥の童話集「春の海のうた」が文協委員中柴光泰、高瀬勝男兩氏の手によつて出版されたのでその記念のためマルトモホールに開催、委員その他二十數名出席暮鳥のこゝとを語り合つた。

▽映畫及健康相談 縣文協の指令に従ひ、農建同盟の映畫班を迎へ七月十二日平窪、十三日大野、十四日川前の三村に衛生講話及び無料健康相談を行つた。健康相談は四十名位、映畫は三百餘名位宛あつた。川前では法律相談もやつたが之は宣傳が徹底しなかつたので利用者はなかつた。渡邊久、松村亨、増田の三醫師の他内木醫師應接大森醫師は講話だけに參加。

▽藝能文化祭 七月廿七日市公會堂に開催會員券五十錢、入場者千餘名、吹奏樂、箏曲、獨唱、長唄、マンドリン尺八、舞踊等を行ひ東日の瑞穂踊りの宣傳指導も行つた

▽文藝座談會 八月廿六日午後三時から東日後援の文藝銃

後講名會の木々高太郎、中山義秀、辰野九紫、日比野士朗氏を迎へて常陽銀行樓上にて開催廿餘名出席。

▽戊辰の夕 七月三日午後七時より市公會堂日本間にて開催出席者百餘名。舊七月十二日は戊辰の役に於て平城の落城したる記念日につき、猪瀬平市長、青沼前平市長、眞木鏗吉翁、(舊藩の儒者眞木光氏を父とし宮内省勅任技師を勤務したる事ある人) 警中歴史科元教諭廣田德行四氏の講演があつた四氏は何れも平藩藩士である。

▽後援事業 「友の會」「警城口腔保健實踐會」を後援その運動の目的達成を後援援助した。

## 白河文協

▽山田わか、阿部靜枝兩氏、婦人講演會開催 會場白河高等女學校講堂、出席者五百名當地方に於て婦人を對照する講演會は初めての催しにして期待多く婦人啓蒙の目的を達成せり。

▽島木健作氏を中心とする農村問題研究座談會(中央公論

昭和十六年七月號參照)開催。

▽其の他名畫觀賞會 レコードコンサート、座談會等數回開催地方民の多大なる感謝と激勵とを受けたり。

▽藝能と映畫の夕 六月二十一日午後六時白河みどり座に於て開催、會員其の他の入場者千二百名、軍人遺家族傷痍軍人招待七百名、計千九百名。内容、太政翼賛の歌(歌へ方指導)民謡、琴曲、舞踊、獨唱、映畫等地方稀に見る盛況を呈せり。

▽正しき体操の夕 八月十一日午後六時、白河町みどり座に於て開催、出席者千名、内容ラジオ体操、大日本女子青年体操、大日本青年体操、厚生体操等を詳細なる解説のもとに實演したる外瑞穂おどり映畫等とり込みたり

▽耐熱二十五キロ歩くの會 八月十五日午前八時出發、參加男女合せて六百名年齢に依り、白虎、朱雀、青龍、玄武、白河小峯各隊に分ち白河—小田川—川崎—大沼—白河の順路にて途中度々雨に會ひしも全員一名の落後者

も出さず豫定のコースを踏破せり。

▽妊娠婦無料検診及ワ氏反應無料検査 九月十五日より當町醫師團の協力に依り實施。

▽厚生映畫會 厚生リーフレットの隣組配布等を近日中に實施の豫定なり。

▽生活科學講習會 十月二、三、四日の三日間當町三國民學校にて開催の豫定、内容は明日より役に立つ豆科學を婦人を主として對照にして行ふ。

▽發明展覽會 科學及發明思想普及のため東西白河石川三郡下に出品を勧誘して十一月十四、十五、十六日の三日間當町第一國民學校にて開催の豫定。

▽教化映畫 隔月實施の豫定。

▽結城宗廣廟 樂翁公等郷土偉人の行績を偲び一般民衆の教化の資とし南湖神社結城廟等を中心として心身練磨を行ふ。

▽秋期歩くの會 今回の實績に鑑み今秋に於ても更に強化實施の豫定。

▽町民体育大會 十月三日明治節を以て全町民に出場を求めて實施の豫定。

▽体力檢定受驗者修練講習會 十月上旬の豫定。

▽農村慰安隊組織 今冬の農閑期を利用して近村を巡回し映畫、音楽、演劇等に依り慰問を行ふ。

▽カメラ報國隊組織 銃後活動の状況を影撮し展覽會を開催して其の作品に依り軍人及び産業戰士の慰問を行ふ。

▽宣傳ポスター展 國民精神昂揚を中心とする防諜、防空増産体位向上貯蓄等に關する宣傳ポスターを募集す。

其の他、郷土偉人の再認識、圖書館の整備、有名人の招聘に依る觀光宣傳、慰問美術展、音楽會、レコードコンサート、民藝の調査と復興等々を企畫せり。

## 石川文協

▽ラジオ体操獎勵指導 從來國民學校々庭に兒童と一般希望町民とにより八月一日より二十日までの期間中實施し來たりしものを協會体育部指導の下に七月一日の興亞奉

公日を期し町内隣組（就農部落を除く）を單位に會場を設け街頭に於て實施趣旨の普及徹底に努め十月末日まで繼續する出場參加隣組員並に兒童數は一日平均五百名現在までに延人員約三萬餘を突破せり。

▽水害見舞金募集藝能大會 昭和十六年七月二十三日の水害による被害は石川町に於て浸入家屋八百五十餘戸、總額百拾餘萬圓の損害を蒙り雄々しく復興建設に従事中の町民に慰安と健全娛樂とを與へ且つ見舞金を贈呈するため協會娛樂部が中心となり藝能大會を開き、總收益金參百參拾八圓八拾錢より五拾貳圓の經費を差引きたる貳百八拾六圓八拾錢を町當局に寄託罹災者への見舞として贈呈復興に對する一粒の糧とせり。

▽花嫁衣裳並に裝身具設定 生活新体制の具現と冠婚儀式の改善を強行する見地から町當局翼賛會支部、町婦人團體、並に隣組婦人部長等の協力を得て花嫁式服並に裝身具を各二組（五百圓）を設定製作し貸貸を十月一日より開始することとし準備を完了せり、本事業々務一般の責任

は近く誕生を見る新婦人團體が之を負ひ其の衝に當る、依て今後は各階級を問はず全町民が新調することなく該花嫁式服を使用嚴肅に神佛前に於て學式をなすこととなれり。

▽協會員の常會指導 町内會十一、隣組八十餘の常會に協會員中より夫々職域に應じ指導者を派し健全なる常會運営の指導に協力文化政策の浸透に萬全を期しつゝあり。

▽道路河川の美化運動 國民學校兒童、男女中等學校生徒並に隣組の協力を得て道路河川の美化清掃運動に積極的公德心の振起を圖りその成績見るべきものあり。

▽口腔衛生思想の徹底運動 九月十日晝夜二回に亘り講演と映畫會とを開催して衛生思想並に節米運動を徹底せしめたり聴衆二千余名。

▽重要時局問題座談會 毎月一回神社境内、寺院佛閣、講堂其の他の場所に於て精神修養を兼ね時局問題を取上げあらゆる角度より研究をなし、互に意見の交換發表と協議とをなす座談會を催し時局認識の資となし居れり。

▽模型飛行機並にグライダー滑空競技大會 國民學校兒童並に中學校一、二學年生までに空への關心とこれを科學する心とを植付けるため石川郡教育會の後援を得て十月十二日石川中學校々庭に模型飛行機並にグライダー滑空競技大會を開催する豫定。

出場參加校は場民學校二十一校、中學校一校にして各校三名以上にて優秀なるものに賞品を授與す。

▽乳幼児檢診並農村厚生に統制ある指導方法確立 協會厚生部に於て町内並に隣村開業醫と協力一般乳幼児の保健衛生に一段の努力をなし体力の増進、体位の向上に覺醒せしむるため時々檢診を行ふ一方、従業農村に多く見たり「トラホーム」の撲滅、寄生虫の驅除等一般人に關心を持たしむべく、あらゆる方策を講じつゝあり。

▽非科學的、無統制なる地下埋藏物採掘の矯制 當地方に於ける稀土類原素及長石、珪石等地下埋藏物に對し所謂山師的開發者殺到し、只時代の波に乗り非科學的無統制に濫掘するもの多きに鑑み協會學術部に於て専門的科學

者と協力の上此等企業者及土地所有者を善導し合理的に資源開發の方法を講ぜしめ臨戦体制下に於ける國策の線に沿はしむる様努力しつゝあり。

▽其他 實踐運動に移せるもの、又は目下計畫中のもの多きも之を省略す。

### 三春文協

▽郷土史講演會 六月十五日午前十時三春實科高等女學校に開催聴講者二百名左の講演を行ふ。

維新の三春藩

オーム社長 浪岡 具雄氏

秋田氏について

東北帝國大學内典 大島 正隆氏  
羽史料調査部囑託

▽文化講演會 七月二十日午後七時三春町公會堂に開催、聴講者三百名、婦人多し、左の講演を行ふ。

昔の三春

田村中學校教諭 高久田脩司  
本會委員

家庭樂について

同 磯村 名男

山の語

本會委員 川又 恒一

▽藥草採集 八月十五日午前九時國民學校集合、三春町近郊に行ふ。参加者百二十名、男女別二班を作り磯村名男氏外本會科學部員指導パンフレットに依り三十六種採集午後四時終了。

▽口腔衛生映畫會 九月十二日午後六時半福島縣齒科醫師會と共同三春町公會堂に開催、會衆六百名。

咀嚼について講演

齒科醫 八卷 金藏

映畫數種。

▽相撲大會 九月六、七の兩日午後六時より同十時まで三春國民學校に開催、参加競技者國民學校兒童百二十名、青年學校生徒六十名、一般三十名、觀衆毎夜約三千名。

▽其他 一、九月二十日學童模型航空飛行大會 二、郡山放送局よりローカル放送の番組編成 三、萬葉集研究會(月次)

### 富岡文協

▽昭和十四年十二月二十五日 富岡小學校講堂に於て創立

結成式舉行、出席者百五十餘名、會則の制定、役員の選任文化講演あり盛會裡に散會。

▽昭和十五年三月九日 午後六時より富岡町富岡座に於て應召遺家族並に歸還兵慰安のため「音樂と演藝の夕」を開催した入場者一千餘名に達し盛會を呈した。

▽昭和十五年六月五日 午後五時より富岡小學校講堂日本間に於て地方文化發展の座談會を開催。

▽昭和十五年十一月三日 農村娛樂問題の座談會を富岡町亀屋本店に開催したが出席者五十餘名。

▽昭和十六年一月一日 富岡町亀屋本店に臨時幹部會を開き文化會館建設を初め富岡町上岡村合併促進演說會開催の件を協議し直に運動に着手。

▽同年二月十一日 午後一時より亀屋本店に役員會を開き新體制に即應し大政翼贊運動の一翼として臣道實踐職域奉公に挺身する決議をなす。

▽同年五月五日 亀屋本店幹部會を開き福島縣翼贊文化協會絕對支持の決議をなす。

▽同年六月十日 福島縣翼贊文化協會の實質的支部として再編制の申合せをなし四十餘名の委員を選任し双葉郡文化協會の創立再編制に着手毎月二回定例幹部會を開き文化運動の實踐に挺身することになった。

### 小高文協

▽六月二十八日 福島縣翼贊文化協會と農村協同休建設同盟福島縣本部との協力計畫の農村慰安の映畫會を午後七時三十分より小高國民學校講堂にて開催、入場者滿員盛況を極む福島縣翼贊文化協會より娛樂委員成田健次氏出張講演ありたり終了後座談會を催す。

▽七月十七日 福島縣廳第二會議室に於て開かれたる第一回福島縣文化振興協議會には代表員を出席せしめざりしも文書にて連絡をなす。

▽八月十六日、十七日、十八日 福島縣翼贊文化協會主催の文化運動指導者講習が福島市信夫山乃木庵に於て開催されたるに對し會員遠藤演、村田武雄の二名を派遣し受

講せしむ。

▽九月三日 郷土文化資料として相馬野馬追繪葉書並に野馬追人形を福島縣翼賛文化に寄贈す。

### 二本松文協

▽第一回準備會 六月十一日午後五時二本松常磐屋階上に開く、出席者二十一名本協會々則並に會長安藤信を推薦決定の後創立準備委員六名を指名して散會。

▽第二回準備會 六月廿七日午後七時會場常磐屋に開き部門を八組に分け、理事幹事を選衝して各部門の連絡に當る事となし散會した。

▽第三回準備會 七月廿六日、二本移動演劇連盟を迎へて結成式を擧げる事になり安藤會長宅に開く、結成式次第並に演劇の夕の準備に必要な事項を協議して直ちに着手した。

▽結成式 七月卅一日午後一時から縣社二本松神社に結成式を舉行、出席者四十二名、來賓十數名安藤會長の挨拶

大河内町支部長その他の祝辭同四時終了。

▽演劇の夕 七月卅一日午後六時双松座劇場に健全娛樂提供の目的で開催、來觀者八百名、安藤會長「文化協會の使命」に就ての講演あり、次で理事 名役員三十名（委員及び幹事の決定したるもの）を紹介す又幕合中に二本松會陽製糸工場従業員廿名の「瑞穂踏り」を披露し盛大裡に同十時閉會。

▽第一回理事幹事聯合會 九月十二日二本松信用聯合會議室に開く出席者十一名、常任理事淺沼喜一、鈴木五郎、佐藤政實の三名及び各部門部長を選任し近く食糧改善營食講習會を開く事に内定す。

### 須賀川文協

七月五日發會式の當夜一般町民のために懸能祭を催す。その後二ヶ月は専ら會員の錬成につとめ座談會研究會等を開く。

### 川俣文協

文化講演會、同研究會、農村慰安映畫會、同音樂等を數回に亘つて行ふ。八千町民の三ツ一以上が機織工といふ特殊地帯では特に娛樂問題を重要視し演劇と音樂等を潮繁に、參加團休舞臺藝術挺身隊（竹内七藏）は今春以來既に二回の公演を行ひ、十月中旬第三回公演を行ふ。レパートリは縣文協推獎又は選定。なほ洋畫家の會員丸樹長三郎は六月下旬福島市に個展を開く。

### 藤田文協

結成後まだ間もなく特筆すべき活動もないが、八月二日移動演劇隊を招聘、水害村見舞金募集演劇の夕べを催す。また九月二十九日夜には福島放送局より時局劇「みんな笑つてゐる」（縣文協坂本六良作）を放送す。藤田演劇研究會の再編成を果す。

### 安積文協

増産と、文化的向上への研究會、座談會等を定期的に行いてゐる。八月には東北農村技術の研究會を開く。

### 梁川文協

新國民文化建設の理論的、技術的研究のための座談會、研究會を開いて來た。

### 參考事業

#### 第一回福島縣文化振興議會協議事項

- 一、文化運動の基本方策として各部並に地區別の連絡を緊密にする件（白河文化協會提出）
- 二、郷土文化の調査研究に関する件（同）
- 三、時局對應座談會開催指導に関する件（石川文化協會提

出)

- 四、乳幼児の健康指導に魂を入れ農村厚生に統制ある指導研究方法を確立する件(同)
- 五、非科學的無統制なる地下埋藏資源開發者に統制を加へ健全なる企業の合理化指導に關する件(同)
- 六、文化運動促進のため機關紙發行に關する件(同)
- 七、地方文化協會統制に關する件(須賀川文化協會提出)
- 八、指導体制並に方針確立に關する件(同)
- 九、文化運動指導原理確立に關する件(會津文化協會提出)
- 十、縣下文化協會連絡機構確立に關する件(同)
- 十一、移動文化隊組織に關する件(同)
- 十二、本縣文藝雜誌發行に關する件(郡山文化協會提出)
- 十三、縣内文化協會聯合機關紙發行に關する件(同)
- 十四、増産目的達成のための農村文化研究技術公開に關する件(安積農村文化研究會提出)
- 十五、文化を攝取し得る時間を農村が見出す方法に關する件(同)

十六、醫療機關を農村に具備する方法に關する件(同)

十七、福島縣翼贊文化協會は毎月全縣下文化運動の中心題目を提示せられたし(磐城文化協會提出)

懇談事項

- 一、縣文化の組織強化に就て
- 二、文化運動指導者練成會に就て
- 三、農村娛樂に就て

文化運動指導者講習會

期日 昭和十六年八月十六、十七、十八日

場所 福島市信夫山乃木庵修鍊道場

講師 大政翼贊會文化部副部長上泉秀信氏、勞働科學研

究所長暉峻義等氏、評論家(東大講師)中島健藏氏

最上共同村塾長松田甚次郎氏、公立福島病院長池

田龍一氏、縣翼贊文化協會長大原八郎氏、外

尙朝八時から一時間半、夕七時から一時間半の研究會、

座談會は本田長兵衛(福島高商教授)桑原啓(會津文化協會

理事長)矢部善兵衛氏(翼贊會縣支部組織部長)外數氏

412

417

終

發行日 昭和十六年十月十日

責任者 福島縣翼養文化協會 坂本六良